

ばら園の再整備着々と

「全国都市緑化ぐんまフェア」を開催

このごろ春めいて暖かい日もあり、本格的な春の到来が近いことを思わせます。緑と花の季節ももうすぐ。そこで今回は、本市などを会場に平成二十一年に開催される全国都市緑化ぐんまフェアについて取り上げます。準備が進められている公園緑地課でフェアの概要やそれに向けた公園の整備などについて、話をお聞きしました（担当は市民編集委員・伊丹、須藤）。

問い合わせは公園緑地課 890 6848へ。

昭和58年から続く「花と緑の祭典」 緑化や環境問題の啓発を

全国都市緑化フェアは、昭和五十八年、建設省（現在の国土交通省）の提唱によって、大阪府が主催し、豊中市にある服部緑地で開催されたのが第一回。以後、都府県や政令指定都市などが持ち回りで、財団法人・都市緑化基金と共同して開かれていた「花と緑の祭典」です。このフェアは、一人一人が緑

の大切さを確認するとともに、緑を守り、増やし、育てるための知識を得る場として開催。総合的な都市緑化を幅広く進めることが目的です。また、生活に楽しさと豊かさ、さらに華やかさをもたらしてくれる花と緑を育てることを国民に広め、国際交流も図っています。

花と緑と人をつなぎ、子どもたちを中心にした環境教育、緑豊かな都市づくりの啓発を進め

ぐんまフェアは第25回目

本市と高崎市が総合会場

第二十五回目となるぐんまフェアの開催テーマは「花、緑そ



にぎわった昨年の「ふくおかフェア」



整備が進む前橋公園周辺（県庁から）

前橋公園にメインステージ 見るだけではなく参加も

前橋公園周辺では、旧競輪場のバンクを取り壊して、会期中は緑化フェア用のメインステージが設けられる予定です。そこでさまざまなイベントなどを行います。

また、各都道府県が花壇を出展するほか、市内の学校や一般市民からも参加を募り、緑化飾花のコンテストなども開催します。見て楽しむだけでなく、参加する催しもたくさん計画されているそうです。

敷島公園ばら園も改修 6千本のバラが咲き誇る

あくの遊具を入れ替えて整備も完了。また、さちの池の改修、周

敷島公園ばら園は、例年六月に開催している「ばら園まつり」の終了後、本格的な改修工事に取っかかりました。現在の二百種二千本のバラが約五百種六千本以上に増える予定。敷島公園の松林の景観を生かしながら、来場者がゆったりと優雅なバラを

辺工事もほぼ完成に近い段階にまで準備が進められている状況です。

前橋公園が再整備されて、美しく変身する日が今から待ち望まれます。

観賞できるよう、会場作りを進めます。なお、この改修工事の期間中は、ばら園が休園になります。

また、フェアの開催期間中は、前橋公園と敷島公園の間を結ぶシャトルバスを走らせ、二つの会場を効率的に回れるようにす



ばら園も改修します

るほか、臨時駐車場から会場へのシャトルバスの運行も検討されているそうです。交通手段にも配慮しながら、本市を訪れる大勢の来場者に喜んでもらえるような準備が着々と進められていました。

市民編集委員を終えて

一昨年の四月十五日号から本紙に毎月一回、二ページを担当し、企画・取材してきた市民編集委員の皆さん。今号で任期を終えました。これまでの活動を振り返り、感想を紹介します。

伊丹明子

それまではただ見るだけの広報紙でしたが、編集に携わる機会をいただき、市政により深い関心を持つようになりました。取材では、いろいろな担当課の皆さんに専門的な話を聞き、多くを学ぶことができました。こ

れからも、市民の役に立ち、しかも親しみの感じられる紙面づくりに期待します。

大沢幸恵

取材活動を通して、多くの人たちと知り合い、改めて人の温かさに触れることができました。皆さんに感謝します。広報紙の「読み手」から「作り手」になり、広い視野で市政を見るきっかけになりました。多くの人たちへのこの経験をしてほしいと思います。あなたも市民編集に参加

杉山市郎

「知らぬ道 知ったふりして迷うより 聞いて行くのがほんの近道」という教訓和歌のように、いろいろと聞く機会を得ることができ楽しい日々でした。人には「心する道」があると思います。編集委員それぞれの思いが、市民の皆さんの知る喜びにつながる紙面を目指したつもりです。

須藤淑彦

文芸欄の創設を提案して市民編集委員に応募して二年間、さ

さまざまな事情で実現できなかったことは心残りですが、市民の立場で紙面作りに参加する中で、それまで気付かなかったり、見逃したりしていた市政の一端に触れることもできました。一昨年十一月の市町村合併後、新たに編集委員一人を迎え、ともに取材できたのもよい思い出です。

中島知子

市民編集委員の一人として、広報紙の紙面作りを担当した当初は、合併直後のため、市政が遠く感じられてしまうこともありましたが、しかし、市民編集の企画会議や取材先でさまざまな

話を聞くにつれ、市政に対する理解も深まり、貴重な体験ができたと思っています。支えていただいたほかの編集委員の皆さんに感謝しています。

三輪明

平成十五年一月十五日号に市民編集のページができてから二期にわたり参加しました。にぎわい課や防犯問題などの硬いテーマから、温泉施設、古くから伝わる正月の習慣などのやわらかいテーマまで、ユニークな紙面作りができたと思っています。市民参加による広報紙編集を長く続けてほしいです。